

説教余滴 2019年8月4日『梅雨明け十日』。

28日、長い梅雨もようやく明けました。「明けない夜はない」、という言葉思い出します。

例年なら7月上旬、昨年でも20日ごろだったでしょうか。数年前、ついに梅雨明け宣言が出なかったことがありました。いつの間にか既成事実化していたのです。気象庁が弁解していました。「天候です、人間様には解らない事があります、これで結構なんです。」

よくあるケースは、台風の襲来で、梅雨前線が押し上げられ、そのまま消えてしまった。台風一過の晴天が梅雨明けでした。来年の今頃はどうなっているのでしょうか。

この朝7時ごろ、善隣園のお母さんと駐車場でばったり。CSキャンプに参加しておられた。「おはようございます。昨日はありがとうございました。お疲れになったでしょう。」

「こちらこそ、ありがとうございます。とても楽しかったです。子どもも私たちも一緒に楽しみました。またよろしくお願いします。」短い挨拶でしたが、嬉しいことでした。教会前の歩道にセミの片羽が落ちていました。アブラゼミ、羽化して間もなく鳥の餌になってしまったのでしょうか。まだその声も聞きません。

都々逸は江戸末期にまで遡るようです。都々逸というのは七・七・七・五からなる短詩型の文芸で、その中に「〇〇殺すにゃ刃物はいらぬ」で始まるものがあります。

「医者を殺すにゃ刃物はいらぬ 朝昼晩と梅を食え」、庶民の健康法。

「土方殺すにゃ刃物はいらぬ 雨の三日も降ればよい」、
「ひじかた」ではなくて「どかた」。

説明が必要と感じるほど、世の中変わりました。

「噺家殺すにゃ刃物はいらぬ あくびひとつで即死する」

談志師匠の独演会で、居眠りした客を退席させたそうです。師匠の高いプロ意識、という評価がある。居眠りされて腹立つのはわかるけど、噺家が客に居眠りされて怒るのはおかしい。居眠りさせた自分の芸を反省するのが筋。説教者の自戒。